
8 畳のプール

十洲海良

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

8畳のプール

【Nコード】

N2774R

【作者名】

十洲海良

【あらすじ】

あかるいかなしみとぜつぽつと、ひとりでいることのしあわせ。

サイト『コトバノトリコ』からの転載です。

<http://id53.fm-p.jp/234/mstry/>

ステンレス製の鍵はいつも生ぬるい。一日中制服の右ポケットに入ったままだから、それは一日分の彼女の労働によって温まっていた、自分と同じだけの温度のはずなのに、少しだけ熱く感じる。

鍵は差し込む部分だけが銀色に光っていて、頭の部分は青や赤や黄色のモザイクで出来た豚の飾りが覆っている。数年前に雑貨店で買い求めたそれは、毎日触れられているから少し汚れていて、彼女は時折それを消しゴムや洗剤で洗ってみたりする。カラフルな豚は何も云わない。ただそれはポケットの中で、いつも保温されている。

彼女の鍵束には部屋の鍵と自動車の鍵と自転車の鍵が付いていて、ずつつけていた目玉の親父は壊れてしまった。

けれど、そこにあの部屋の鍵はない。春先に引き払ってしまったあの部屋には他の誰かが住んでいるはずで、そこはもう彼女の居場所ではない。8畳のプール、ゆつくりとたゆたえる場所。エアコンデーションが快適な、完全に密閉された容器。自分で鍵をかけることが出来る、素敵な鳥カゴ。

なぜ失ってしまったのだろうかと彼女は考える。寂しささえ優しかったあの場所、あれを放り出してまで欲しかったものは何だろうかと彼女は考える。

もう鍵はなくて、ベランダから夜明けにみた彼方の空の青さだけが、デジタルカメラのメモリーカードに染み付いている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2774r/>

8畳のプール

2011年4月28日12時05分発行